

さようならありがとう



4月から休校となる坂手小学校で、3月7日、休校セレモニーが行われ、保護者や卒業生、地域のかたなど約150人が出席しました。

式では、全校児童13人が一人ずつ、小学校の思い出を語り、地域のかたへの感謝の気持ちを述べました。

会場には、大正6年から現在までの卒業写真が展示され、坂手小学校133年の歴史を振り返るスライドショーが流されるなど、集まったかたたちは思い出深い校舎との別れを惜しんでいました。

式の後、学校への感謝を込めて、みんなで校舎の窓拭きなどを行いました。

多くの人の交流の場として



堅神町に、「平成20年度電源立地地域対策交付金事業」として整備されていたコミュニティ施設が完成し、3月14日にしゅん工式が行われました。今後、地域の公民館として、町民の生涯学習や交流の場として利用されます。

町内会長の南さんは、「小学校にも駅にも近く、使い勝手の良い場所で本当にありがたい。地域内だけでなく、ほかの地域との交流の場としても使っていきたい」と話してくれました。

まちの話題 18号

島の案内はぼくたちにおまかせ!!



3月5日、地元の小学生がガイドとなって島を案内するツアー「菅島子どもガイド」が行われ、小学4年生12人の「島っ子ガイド」が3つのコースに分かれて、市内外から参加した観光客を案内しました。参加者は、島の町並みや名所をクイズにしたり、島の歌や踊りを交えながら一生懸命案内してくれるこどもたちに大満足の様子でした。こどもたちも「上手に案内できました」と嬉しそうに話してくれました。このツアーは、観光客を案内するために島をよく調べることで、自分たちの島の素晴らしさを再認識してもらおうと、海島遊民くらぶと菅島小学校が連携して企画しました。

答志島の新鮮な海の幸を奉納



2月19日、答志島旅館組合のみなさんが、答志島の繁栄と島のおいしい海の幸をたくさんのかたに味わってもらいたいという願いを込めて、島の新鮮な海産物を伊勢神宮内宮へ奉納しました。

同組合の関係者など約30人がそろいの法被姿で、匂を迎えた和具浦地区の生ワカメや水揚げされたばかりの答志地区のキス、「桃こまち」と名付けられた桃取地区のカキをそれぞれかごに乗せて担ぎ、神楽殿へ運びました。

この奉納は、今回初めて企画されましたが、これから毎年続けていくそうです。